

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。

Contents

- ➔ 子実用とうもろこし栽培による水田農業の高収益化の取組
～ 結城 良裕 氏 ～
- ➔ スマート農業について意見交換を行いました
- ➔ 「令和2年7月豪雨に係る支援対策説明会」を開催



さとうきび(朝倉市)

子実用とうもろこし栽培による水田農業の高収益化の取組 ～ 結城 良裕 氏 ～

国産濃厚飼料の供給と循環型農業の推進を目指す！

結城 良裕 氏(那珂川市)

作付面積：水稲7ha、麦類11ha、
子実用とうもろこし2.4ha
(那珂川地区1.4ha、鞍手地区1.0ha)
労働力：家族2名

子実用とうもろこし栽培の取組

《 始めたきっかけ 》

・那珂川地域は水系が少なく、さらに狭溢水田が多かったことから、水管理が不要で収益性の高い作物への転換を検討していたところ、知人の北海道の子実用とうもろこし農家から、高収益性と省力化が図られると勧められ、平成30年から作付け開始。

《 作付面積 》

・子実用とうもろこしの需要の増加に対応するため、令和2年産は1圃場面積が大きい鞍手町の野菜(ブロッコリー、加工用キャベツ)作付田の間作として作付を増加。農作業受託(作業受託料は収穫物)の形態をとっている。

《 販売 》

・取組当初は鳩の飼料として丸粒で販売。現在は養鶏農家からの注文に対応し、粉碎して販売。
・県内の2養鶏場、県外の1養鶏場から引き合いがあるが、収量が少ないため、現在は那珂川地区の養鶏場のみ供給。



収穫したとうもろこし

取組の効果

- ・初年度の収量は10a当たり550kg。翌年以降、徐々に収量はアップ。
- ・除草剤散布回数の減(中期剤1回のみ)により、大幅な省力化が可能となった。
- ・鞍手町の圃場では、収穫後の切り株をすき込むことから、地力増進とともに、野菜の連作障害の回避に効果があった。

汎用コンバインによる収穫



今後の展開

- ・堆肥投入量の増加により収量の増加が見込めることから、畜産農家との耕畜連携を検討。
- ・さらなる効率化のため、子実のみ刈取可能な汎用コンバイン専用アタッチメントのレンタルを検討。
- ・遠隔地である鞍手町での作付け拡大に向け、来年度、移動式乾燥機の試験稼働を予定。
- ・作付け拡大、増産により、需要に応じた生産体制としたい。

九州では数少ない子実用とうもろこし栽培！
今後も定期的な情報交換をお願いします。



子実用とうもろこしの収益性支援策についてはこちら ↓ ↓

水田農業の高収益化の推進(農林水産省HP)

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/suiden_kosyueki.html



スマート農業について意見交換を行いました

令和元年度より全国で「スマート農業加速化実証プロジェクト」が開始されています。

九州農政局管内では実証プロジェクト29地区が実施しています。また、成果の発信や情報交換が効果的に
行われるよう、令和元年5月27日に「九州スマート農業技術情報連絡会議」を創設しました。

7月28日に「令和2年度第1回九州スマート農業技術情報連絡会議」が開催され、会議後、九州農政局福岡
県拠点では、構成員である、実証グループ(コンソーシアム)、行政等の関係者と意見交換会を行いました。

意見交換に参加された方々

- ・福岡R・O・Iグループ次世代農業実証
コンソーシアム
- ・ふくおか遠藤農産スマート農業実証
コンソーシアム
- ・福岡県
- ・JA福岡中央会
- ・九州経済連合会



実証プロジェクトにて
導入されたトラクター

《その他》

- ・(実証プロジェクトについて)うまくいかなかった取り
組みについても、その要因を整理して今後につなげ
ていくことが重要。

意見交換で出された主な意見

《担い手について》

- ・スマート農業の最終利用者は誰なのか、農業者
にとって分かりやすい説明が必要。
- ・不況時に飲食店関係者が農家を手伝う事例もある
ことから、例えば企業が農業研修を行うことで、農
業関係人口を増やすことができないか。

《広報活動について》

- ・アウトリーチ活動は実証プロジェクトの柱の1つで
あるが、新型コロナウイルスの影響により研修会や
検討会の開催が困難な状況。
- ・WEBを活用した事例があれば共有いただきたい。

スマート農業実証プロジェクト(農研機構HP)
<http://www.naro.affrc.go.jp/smart-nogyo/index.html>
スマート農業実証プロジェクトについて(農林水産技術会議HP)
https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/smart_agri_pro.htm



これまで採択した
124地区の取組内容
をみてみませんか？

「令和2年7月豪雨に係る支援対策説明会」を開催

農林水産省は、7月30日に令和2年7月豪雨による農林水産関係
被害への支援対策を公表しました。

九州農政局は8月31日現在、管内の13会場において、被害への支
援対策についての説明会を開催し、今後も随時開催予定です。

福岡県では8月5日、久留米市にて開催。地方公共団体、JA関係
者ら約70名が出席され、被災した農業用施設の再建、
農業用機械の再取得への支援、次期作への
支援などについて質疑応答が行われました。



足立地方参事官

被災された農林
漁業者の皆様が
一日も早く経営
再開できるよう、
支援いたします

福岡県(久留米市) の説明会の様子



本省(VTR)による支援対策の説明



質問に答える九州農政局等の関係者

令和2年7月豪雨による農林水産関係被害への支援対策について
(農林水産省HP)

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/bunsyo/saigai/200730_1.html

【お問合せ先】九州農政局福岡県拠点地方参事官室
〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3-17-21 TEL 092-281-8261(代表)
<http://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>